



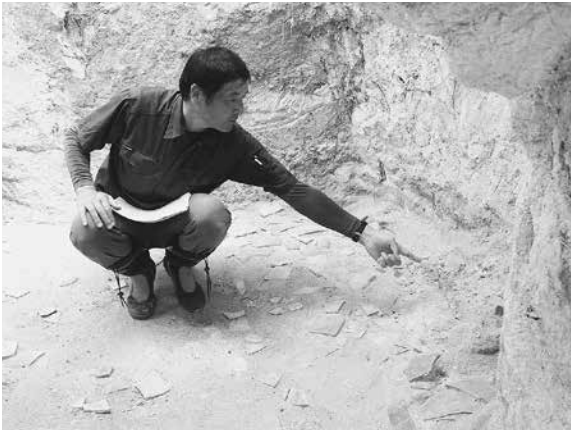
出産記念にフォトフレーム

4月以降に誕生したお子さんを対象に、出産記念品を贈呈する事業が始まりました。地域全体で出産・子育てを応援する機運を高めることが目的です。

記念品は木製「フォトフレーム」。県ふるさと伝統工芸品に指定されているケヤキ指物木工(野白木工所製・安来町)で、手づくりの温かみのあるものです。受け取った小川拓己くんの母親・葉月さんは「生まれたときの写真を入れてリビングに飾りたいですね」と話しました。



▶大きさは約19×24センチ。4か月児健診時に、該当する親子にお渡ししています。



▶須恵器床の横穴墓。担当者が指しているのが鉄製太刀。

古墳時代後期の横穴墓群

土地区画整理事業に伴い調査を進めている米垣横穴墓群(黒井田町)で24基の横穴墓が確認されました。閉塞石が残る未盗掘のものが多く、副葬品は鉄製太刀や勾玉をはじめ銅製耳環などが確認されています。また、石棺や須恵器床を持つもの、製作途中のものなど幅広い構成の墓群となっています。

担当者は「市内の横穴墓群の発掘調査例では、最多の遺跡。墓域の歴史や埋葬の変遷を考える上で貴重な資料」と話していました。

「声の広報」を始めました

毎月発行している広報やすぎ「どげなかね」9月号から「声の広報」を配布しています。目が不自由な人が対象で、紙面の内容をCDに録音し、プレーヤーなどで聞くものです。

制作は市内の障がい者福祉サービス事業所に委託。今後は、広報やすぎに加え、市議会だよりも「声の広報」を発行する予定です。

希望する人は政策秘書課または福祉課へ問い合わせください。



新議場で市議会の初定例会

新安来庁舎の議場で初めての市議会定例会を9月1日、開会しました。冒頭の所信表明で近藤市長は「心新たに、市民の皆様が夢と希望の持てるまちづくりにまい進すべく、この議場で議員の皆様と建設的な議論を積み重ねてまいりたいと思います」と話しました。

新議場は採決を電子化。手元のスイッチで採決を行い、瞬時にその結果が壁面のモニターに映し出されます。また、傍聴席はバリアフリー化となり、車いすでも傍聴ができます。



▶新しい議場で所信表明を述べる近藤市長。